

**令和5年度 英語教育推進事業
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】**

令和6年6月

池田市教育委員会

1. 概要

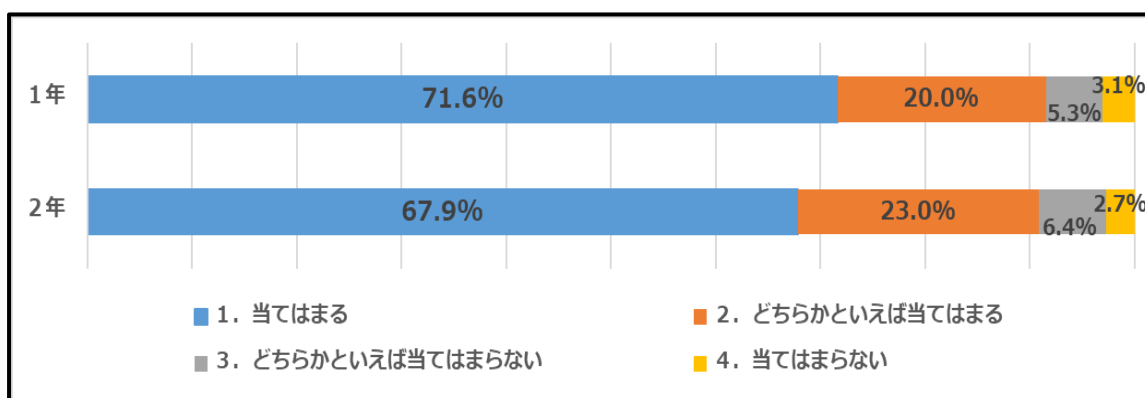
■池田市では平成16年3月に構造改革特別区域計画の認定を受け、「教育のまち池田」特区に取り組んできました。市立小学校全学年に「英語活動」を教科として導入（全学年 年間35時間）し、平成18年度より全小学校で実施してきました。平成20年7月より「構造改革特別区域研究開発学校」規制の特例措置が全国展開されたことにより、本市の特区認定は取り消され、文部科学省の「教育課程特例校」指定に移行し、これまでの特区内容の教育課程を継続実施しています。平成25年度に「教育課程特例校」の実施期間の終了を迎えましたが、平成26年度以降も継続を申請し、1～4年生における「英語活動」の授業を実施しました。新学習指導要領への移行に伴い、「英語活動」は引き続き1・2年生で実施し、幼稚園、小・中・義務教育学校での継続的な英語学習をすすめています。この1・2年生の「英語活動」は生活科の時間を活用して年間15時間実施しています。内容としては主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。早期の段階から英語に触れることで、ことばや文化に対する関心を高め、正しく理解し、国際社会で生きる力を育成することをねらいとしています。中学年からの外国語活動、高学年からの外国語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。

■池田市では小学校6年間の英語の学習成果を検証するために、6年生を対象に GTEC を実施しています。GTEC とは、英語の 4 技能（聞く・話す・読む・書く）を測定する外部試験です。4つの技能を全てタブレットで測定します。子どもたちの学習成果を測定するだけでなく、課題をとらえ、外国語の授業改善にも取り組んでいます。令和5年度6年生の結果も下記に掲載いたします。

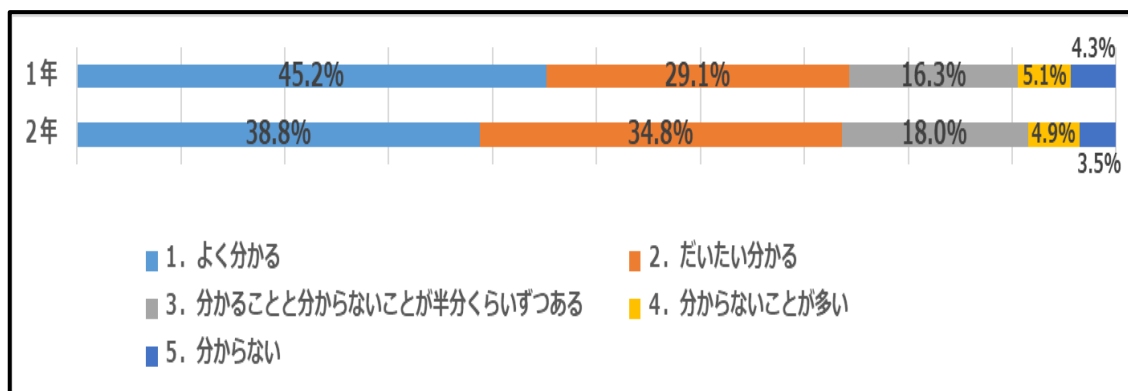
2. 池田市の児童アンケート結果

【小学校1・2年生対象（教育課程特例校における特別の教育課程を実施している学年）】

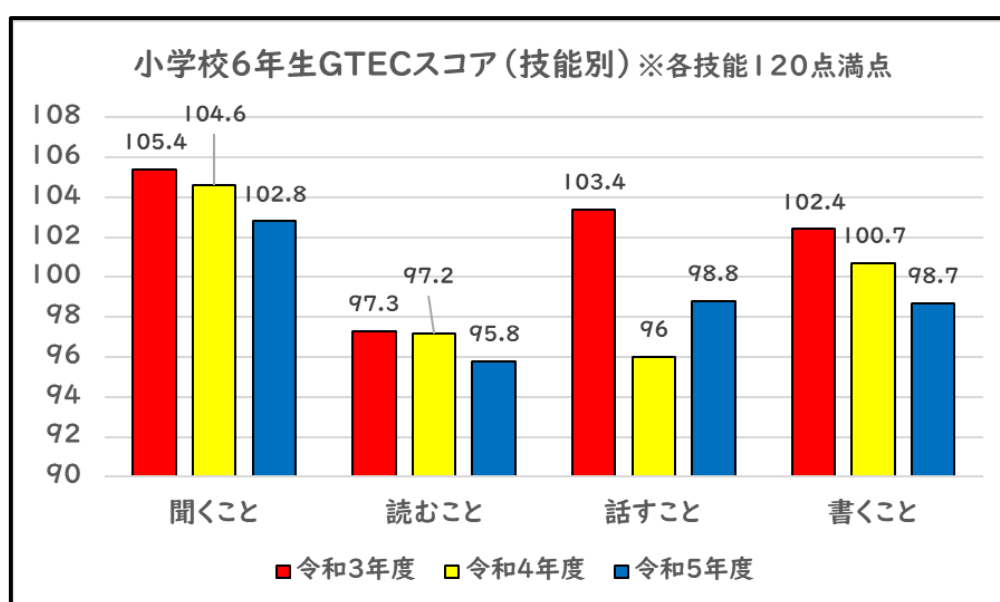
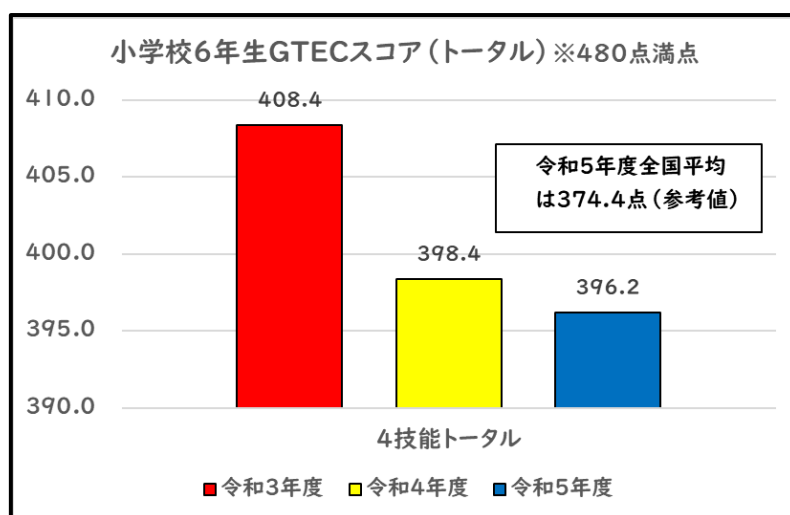
①英語活動の時間は楽しいですか



②英語活動の授業はどの程度分かりますか



3. 池田市の GTEC のスコア推移 (令和3年度～令和5年度)



4. アンケート等の結果より

GTECの受検を始めて7年になる。トータルスコアについては、対象児童が毎年変わるため、年度によって変動はあるが、昨年度を含む過去3年間に於いて全国平均を上回る結果となっている。4技能別でのスコアの推移をみると、この7年間で特に「話すこと」の産出技能において成果が見られる。現行の学習指導要領において重視している「互いの気持ちや考えを伝え合う言語活動」を小学校6年間の中で多く設定してきたことの成果であると推察する。

また児童対象のアンケート項目「英語活動の時間は楽しいですか」に対する小学1年生、2年生児童の肯定的回答の結果も高い。しかし児童が中学年、高学年になるにつれ、肯定的回答の割合が低下している現状があるため、今後も児童の発達段階に応じた英語の授業の積み重ね、また、子どもたちが楽しいと思える授業づくりに取り組んでいく必要がある。

5. 英語担当教員アンケート(小学校1・2年生の英語活動について)

- ・小学校1・2年生で繰り返し「Do you like〜?」などの表現を使うことで、3・4年生でも抵抗がなく、授業を進められる。低学年では、楽しんでゲームや歌などのアクティビティを中心に行っているため、「英語が楽しい」という気持ちで、子どもたちが取り組むことができている。
- ・楽しい活動を中心に行い、子どもたちがだんだんと英語を好きになっている。低学年のうちに、もっと英語に触れてもらいたい。
- ・歌をふんだんに使い、体や指を動かす活動も多く取り入れ、「できる・わかる」授業をこころがけている。児童の個人差をどのように埋めるかが課題。
- ・簡単なあいさつや気持ち、物の名前などを通して楽しく英語に触れている。はずかしがらずに体全体で表現したり、発表したりする姿は、低学年らしくてとてもよい。

6. 保護者・学校関係者等の評価

- ・簡単なあいさつや歌に合わせて英語に触れたりすることで子どもたちが楽しく入門期の英語学習にスタートができるので、継続してほしい。
- ・家でも英語の学習について話したり、簡単な英語を使ってコミュニケーションを取ろうとしたりするなど、英語に親しんでいる様子が伝わる。
- ・低学年の頃から「慣れ親しむ」ということは、それ以降につながる大切な経験につながると思う。
- ・英語嫌いが増えないようにしてほしい。
- ・簡単な文法が分かっていないまま高校や大学に入学してくる生徒、学生が増えていると聞いている。話すことも大切ではあるが、まずは基礎基本をしっかり定着させてほしい。
- ・高学年になっても、楽しみながら英語の授業を受けている様子が伺える。
- ・アンケート「英語の勉強は好きだ。」の項目では、否定的な回答をしている児童も少なからずいる。小学校で英語が嫌いになってしまえば、中学進学後の学習意欲が下がってしまう。小学校低学年では、英語を学ぶ楽しさを特に大切にしてほしい。

7. 今後に向けて

英語担当教員対象のアンケート結果にもあるように、低学年からの英語活動により、英語の音声や表現に慣れ親しむという点では効果が出ているように感じている。また GTEC の結果からも、「話すこと」の技能のスコアが安定して高い状態であることは、児童の6年間の英語の学習の成果であると言える。一方で児童が中学年、高学年になるにつれ、英語の勉強に対する肯定的な捉えをする児童の割合が低下している現状がある。児童が英語に対して苦手意識をもってしまわないように、低学年の英語活動においては、クラスメイト等の身近な人々との関わりの楽しさや大切さを伝えていくとともに、多文化共生の視点も含めながらどの児童も前向きに楽しんで取り組んでいけるような学習活動を工夫していかなければならない。また低学年での学びを中学年以降へとしっかり引き継いでいく必要がある。